

# 第20回 記念 こころの市民講座

心の病は決して他人事ではありません。地域でともに生きるために一緒に考えていきましょう。

●2014(平成26)年度 生駒市マイサポいこま 支援金交付事業

こころの市民講座／初めての取組 ■ イタリア映画上映会 + 解説 + 体験談

みなさんご存知ですか? イタリアでは1977年に精神病院の閉鎖が宣言されました。翌1978年には精神保健法(180号法)の立法によりイタリア中の精神病院が廃止されました。この映画の背景はそこなんです。

映画 **人生、ここにあり!** 上映時間 111分

09年イタリア・ゴールデングローブ賞受賞  
09年ダヴィッド・デ・ナテッロ賞 David of the Youth 受賞

これはおもろい! びっくり仰天!  
精神科病院を退院した人たちがイキキドタバタと自分を生きる! イタリアではじまった本当の「しあわせ革命」を当市民講座初の映画上映会でご覧ください! 施設利用の仲間達の体験談も聞き応えアリ!

やればできるさ!!

■日時 2015年 2月28日(土) 13:00~16:00  
生駒市コミュニティセンター文化ホール 定員(270名)

映画の後がもっとおもしろい  
映画の解説と精神がいを持つ人と支援者のイキキ生活体験談

「ぼくたちの「生きづらい日々」だとはいえる素晴らしいこともアリ」のぶっちゃけトークです。

生駒市コミュニティセンター

舞台は1983年のイタリア——ミラノ。型破りな活動で労働組合を追い出された熱血男・ネッロが行き着いた先は、精神病院の閉鎖によって社会に出ることになった元患者たちの協同組合だった。オカド違いな組合の運営を任せられたネッロは、精神病の知識が全くないにも関わらず、持ち前の熱血ぶりを発揮。個性が強すぎて社会に馴染めない元患者たちに、「シゴトでオカネを稼ぐ」ことを持ちかける。すぐに手が出るキレやすい男、彼氏が100人いるという妄想を持つ女、UFOが年金を支給してくれていると信じる男…そんな一筋縄ではいかない面々とネッロは、ドタバタなトラブルを巻き起こしながら、無謀ともいえる事業に突っ走っていくが——。

監修・脚本:ジュリオ・マンフレドニア 原案・脚本:ファビオ・ボニファッチ 製作:アンジェロ・リッツォーリ 撮影監督:ロベルト・フォルツァ  
編集:チェチリア・ザネーロ 音楽:ピエロ・アルド・デ・スカルツィ 出演:クラウディオ・ピジノ、アナー・カプリオーリ、アンドレア・ボスカ、ジョヴァンニ・カルカーニョ  
ミケーレ・デ・ヴィルジリオ、カルロ・ジュゼッペ・ガバルディーニ 原題:Si Può Fare (「やればできるさ」) / 2008年/イタリア/111分  
配給・宣伝:エスパス・サロウ 協力:イメージ・サテライト 特別協力:イタリア文化会館 後援:イタリア大使館 提供:新日本映画社、朝日新聞社 http://jinsei-koko.com/

■お問い合わせ/地域活動支援センター・コスモールいこま ■主催/生駒精神障害者ひだまり後援会 ■参加資料費 500円  
TEL 0743-73-0900 (先着 270名様・事前申込不要) ■後援/生駒市社会福祉協議会 障害者は無料:手帳をご呈示ください

## 精神障害者の家族の会ひだまり家族会 2015年1月・2月・3月 例会予定

- 1月新年会 24日(土) 11時30分~16時 会場:富雄・霊山寺 参加費 3,000円(会員)・1,000円(当事者) 参加申込は下記まで
- 2月例会 21日(土) 1時30分~4時 (定例会は毎月第3土曜日に行っています)
- 3月例会 21日(土・祝) 1時30分~4時 日時変更の月もありますので、下記(上村)までお尋ねの上ご参加ください。
- 通常例会 会場 生駒市市民活動推進センターららぽーと3階
- 会費 一月300円(年3,600円) 新年会等 レクリエーションは別途参加費必要
- 連絡 TEL 0743-79-1195(上村)

■生駒精神障害者ひだまり後援会 生駒市内の精神障害者に関する活動に関して必要な支援を行い、もって地域における精神障害者福祉の増進に寄することを目的とする。年会費一口2000円 事業:トーク&ライブひだまり(年1) こころの市民講座(年2) ◆連絡先・コスモールいこま内 TEL0743-73-0900

09年イタリア・ゴールデングローブ賞受賞  
09年ダヴィッド・デ・ナテッロ賞 David of the Youth 受賞

これはおもろい! びっくり仰天!  
精神科病院を退院した人たちがイキキドタバタと自分を生きる! イタリアではじまった本当の「しあわせ革命」を当市民講座初の映画上映会でご覧ください! 施設利用の仲間達の体験談も聞き応えアリ!

■日時 2015年 2月28日(土) 13:00~16:00  
生駒市コミュニティセンター文化ホール 定員(270名)

映画の後がもっとおもしろい  
映画の解説と精神がいを持つ人と支援者のイキキ生活体験談

「ぼくたちの「生きづらい日々」だとはいえる素晴らしいこともアリ」のぶっちゃけトークです。

機関誌「ひだまり クローバー」ご案内  
発行/生駒精神障害者ひだまり後援会 機関誌係

「ひだまり後援会・会報」として春夏秋冬・年4回、機関誌「ひだまりクローバー」を発行しています。会員にはこのほか、「トーク&ライブ(年1回)」「こころの市民講座(年2回)」の案内などをお送りしています。  
〒630-0214 奈良県生駒市東生駒月見町 231-5 坪田 博方 連絡先 TEL0743-74-9652

# ひだまり

HIDAMARI CLOVER

2015

〈ひだまりクローバー〉  
第17号



きたかぜ さざんか ひだまりの街

あけまして おめでとう ございます  
2015年新春・第17号は奈良県内で話題の・・・「SINEMA 特集」です。

うつ病・統合失調症・ひきこもり・精神病・精神障害・こころの病・発達障害・認知症など「心身の普遍」をテーマにした映画が多く製作されています。ヒトの脳と体の姿を 時代と社会背景とともに描いています。2014年奈良県内で上映された、あるいは予定されている映画をご紹介します。巻末には当会「第20回記念・こころの市民講座」2月28日(土)上映/イタリア映画「人生ここにあり!」の案内を掲載。



会員のみなさんご存知ですか?  
イタリアでは1978年にマニコオミ(精神病院)を廃止する新しい精神保健法(180号法)が、国会のほぼ全会派一致で成立しました。2014年10月4日橿原市で上映(主催 奈良Mattoの会/バザーリア映画を自主上映する180人のMattoの会)された「むかしMATTOの町があった」はその経緯を描いた映画です。「MATTOの町」とはいわゆる精神病院のことです。バザーリアという精神科医の「自由こそ治療だ!」という理念に立っての医療改革の道を描いています。



映画鑑賞・感想 精神障害のある人が地域で安心して暮らすにはどうしたらいいのでしょうか。この映画を見終わって、昨今 精神科の病院敷地内の居住施設を病院ではなく「住まい」とみなすことで入院患者数を減らすという方針を日本の厚生労働省が打ち出した、いわゆる「病棟転換問題」を思いました。カメレオンのように色を変える「看板のかけかえ」は「地域で安心して暮らす」精神障害を持つ人たちを また閉じこめてしまわないでしょうか? 治療も生活も自由があってこそ・・・。思いこみはいけないと思いますが「人権」という概念が深まらない日本。この映画のような「自由こそ治療だ!」というエネルギーあふれる理念は お互いを認め合う「人権」が背景だと感じました。(坪田)

## 市議会で一一致した採決どおりの福祉医療を!

●「精神障がいを持つ人にも身体障がい・知的障がいを持つ人と同じように全科の通院医療費の助成を実現して欲しい」という「ひだまり家族会」の誓願は本年10月3日生駒市議会で全会一致で可決された。(ひだまりCLOVER16号記事)  
奈良県議会で平成26年10月実施予定として本件は可決成立している経緯もある中、12月1日、生駒市山下市長から生駒市議会中谷議長へ「平成27年4月から精神障害者手帳1級所持者から実施」という取り扱い結果の報告をされた。(福祉医療実現会議速報より)。「ひだまり家族会」は生駒市議会議長に対して議会の採決に従った実施を市長に求めるように話し合いを詰めるに至った。今後の経緯は次号に掲載

## 精神障がいを持つ人が働ける場・説明会

●生駒山麓公園・野外活動センターやふれあいセンターは指定管理者団体(株式会社モンベル・社会福祉法人青葉仁会 共同体)が運営を始め、ここで「障がい者就労支援訓練」が始まります。(ひだまりCLOVER15号記事)  
12月11日、障害者が働く場として山麓公園・ふれあいセンター等の説明会がありました。当会が支援しています「ひだまり・はなな・コスモール」の3施設の15名が説明会に参加しました。2015年1月7日より山麓公園のお風呂の受付業務が開始され、この業務を二人一組で引き受ける事になりそうです。午前(10:30~2:20)と午後(2:20~6:20)です。お風呂のチケット受付や、シャンプーの販売等が主な業務となりそうです。

生駒精神障害者ひだまり後援会 〒630-0256 生駒市本町7番14号ブルームビル3F コスモールいこま内 TEL0743-73-0900 (代表:神澤創)

# イベント+こころのやまいや 認知症を描いた映画



12時30分開場 参加申込不要

**案内** 精神障がいには社会はどう向き合っていくのか・・・1月10日(土) 奈良県社会福祉総合センター 6F大ホール 1時と4時30分の2回上映 (その間にシンポジウム) 資料代¥800 近鉄橿原線・畝傍御陵前駅 徒歩東3分



**映画「おかしな話」 シンポジウム**

映画「おかしな話」は第36回テサロニキ国際映画祭最優秀監督賞、第20回モントリオール世界映画祭国際映画批評家連盟賞など数々の映画賞を受賞。とある夫婦の間で静かに引き起こされる危機を描くドラマ。塾講師の北沢孝は、妻の百合子に早く帰ると約束したにもかかわらず、同僚と飲んで遅く帰ってくる。孝は電話連絡もしたし百合子の作った約束を破る夫に満たされない気持ちを抱き続けており、その気持ちは次第に彼女の精神に影響し始める。一方、孝は度々の百合子の外出を訝しく思い、あるとき後をつけてみることに。丘の上になたずんだり、他家の前ですっと立っただけという百合子の挙動不審な行動に驚き、啞然とする孝。そんなある日、百合子は車を盗んで乗り出し、警察に捕まってしまう……。

2回の上映の間にシンポジウム(下記: 2時55分〜4時5分)が行われます。

▶シンポジウム:「精神障がいには社会はどう向き合っていくのか 当事者・家族・支援者の立場から、過去・現在・未来を語る」

- シンポジスト  
松村 和彦氏 (なゆたの会 当事者)  
小林 時治氏 (家族)  
奥田 和男氏 (まほろば会 事務局長)  
鈴木 知子氏 ((社福) 萌 精神保健福祉士)
- コーディネーター  
泉 洋一氏 (佛教大学 講師)

■主催 なゆたの会サークルN ■共催 (社福) 萌

## 萌フェスタ 2014 報告



10月25日(土) 10時20〜15時30分  
会場: 奈良県産業会館 (大和高田市)  
主催: 社会福祉法人 萌、萌フェスタ 2014 実行委員会  
♥イベントタイトル「〜今までの感動をこめてありがとう そして差別のない社会へ〜」ご協力ありがとうございました。



▲マリオブラザーズの職員トリオ カフェヤ・お弁当・パン・お菓子のお店などをメンバーと共に頑張りました。



▲「こころをひとつに」片塩小学校金管クラブの演奏

社会福祉法人「萌」が毎年各地域も回りで開催しています。各事業所に通所する精神障害を持つ人と職員、地域の方々、ご支援の企業や店舗の皆さんが集まってお祭り作りをしました。通所メンバーの発表ステージ、模擬店もたくさん出て、会場が一杯になりました。(参加者約1000人) 移動動物園も楽しかったです。今年2014年は生駒地域が担当します。皆さんで協力お願いします。

**感想 映画 ペコロスの母に会いに行く**

「思われること、ボケること、悪いことばかりじゃないんだ。母を見ていてそう思った」(作者)

▲奈良シネマクラブでお薦めの映画を観ました。笑えます。泣けます。コミックも買ってみました。「認知症」はだれもの明日だと思えます。

62歳、無名のハゲちゃびん。漫画家(岡野雄一)が施設に暮らす認知症の母との「可笑しくも切ない」日々を綴った感動のコミックエッセイの映画化! 40歳で故郷長崎にUターンした漫画家が、親の老いを見つめてきた日々を描く。笑えて、温かくて、どこか切ない家族の物語。主人公は、認知症と診断され施設に暮らす現在89歳の母。母が見せる「人生の重荷を下ろした」とびっぴりの笑顔、や著者のほげた頭を見て名前を思い出すエピソードや、時折つばやく亡き父との思い出話などが淡々と……。 (良かった)

## ひだまりCLOVER ■連載 vol. 15

「ひだまり後援会」世話人として

### 「木枯らし」



秋から冬にかけて吹く、立木を枯らせてしまうほど冷たい風を木枯らしといいます。精神に障害を持つ人にもこれまでずいぶん冷たい風が吹いてきました。心の病気に対する誤解や偏見の吹雪の中を歩いてきた人もいません。その多くは、精神疾患に対する知識の不足や、誤った情報もたらしたものでしょう。「よく知らないものには近づきたくない」、これまではそんな気持ちから精神障害者とのかかわりを避けてきた人も多いのではないのでしょうか。障害を持つ方のご家族の苦労もあまり知られていません。現在、わが国には300万を超える精神障害者が暮らしており、日本人の40人に1人はなにがしか精神的な不調を抱えていることなのですが、この現実に関心を持ってくれる人はそれほど多くはありません。

とはいえ、最近になってやっと暖かい風も吹



**神澤 創 KAMIZAWA TSUKURU**  
帝塚山大学 心理学部心理学科 大学院心理学研究科教授 [研究領域] カウンセリングや心理療法など、個人の幸福感やQOLを高める実践的なアプローチに関心があります。最近では自殺対策や精神障害者支援など、主にコミュニティで活動しています。[社会的活動] 奈良県自殺対策連絡協議会会長、生駒精神障害者ひだまり後援会代表

いてきたようです。遅ればせながら、精神障害者の医療費が他の障害の人たちと同じ扱いになる動きが進んでいます。生駒山麓公園が障害者も就労できる施設に生まれ変わるという話もあります。

ひだまり後援会も発足以来今年で20年、いろいろな風をあびながら、皆さんの力で何とかここまで歩んで来ました。近頃では世話人たちも「年季」が入ってきましたので、これからは新しい風をとりこんで次の20年につなげていきたいと思っています。

木枯らしが吹くと、木だけではなく人や動物もずいぶん寒い思いをすることになります。でも、雲を吹き飛ばして冬の夜空を澄み切った空間にしてくれるのも木枯らしかもしれません。そういえば今夜はいつもより星が多いようです。

## 第19回 トーク&ライブひだまり2014

TALK&LIVE ひだまり2014 報告

第19回「ひだまり後援会トーク&ライブ2014」はお楽しみいただけましたか?

「誰もが住みやすい生駒の町に!!」との思いで、当会が精神障害の啓発活動「トーク&ライブ」を企画し、毎回赤字ですが、みなさまの会費によって19回の開催まで至りました。ありがとうございます。20年前、生駒市に小さな「ひだまり作業所」が生まれて、ひだまり後援会が発足し、「施設支援から当事者の支援」へ、そして、啓発活動としての「トーク&ライブ」+ 年2回の「心の市民講座」と・・・定着して活動を続けてまいりました。

この19年を振り返ると、市民の皆さんの意識は、精神の病気を「誰にでもなりうる身近な関心事」と感じてきておられるようですし、障害を持つ当事者は、仲間をつくり、イベントにも積極的に参加し、病気の体験を自分から発信できるほどにもなりました。

第19回「ひだまり後援会トーク&ライブ2014」は11月29日(土)に小雨の中、生駒市コミュニティセンター文化ホールで約150名の参加者を得て開催いたしました。会場受付前では「コミュニティスペースはなな」のクッキーと「パン工房ひだまり」のラスクが販売されました。会場ではまず、2人の女性メンバーのピアノソロ、ハー



▲歌声もすてきだったハーモニカとギターのユニット。  
◀金関環さん(左) + 古川忠義さん(右)

モニカとギターのユニット、創作詩の朗読、生活と治療・施設の日々を語る男性メンバーの発表があり、聴衆の方々の感動が波になって会場全体に伝わってきました。

♪「ヴァイオリン&ギター 錦秋のコンサート」は Return Live / 金関環さんのギター再演です。共演はパーソナリティーでテレビ・ラジオで活躍のギタリスト古川忠義さん。緩急自在のクラシックからタンゴ・ジャズまで、楽しいトークも交えて会場は大受け。共演のソプラノ歌手山尾賀洋子さんの独唱で会場の隅々まで美声が響きわたりました。そして、会場一丸で歌声と手話となった「手話サークル カンナ」の〈手のひらに太陽を〉で「トーク&ライブ」はフィナーレとなりました。

会員の皆様に「第20回トーク&ライブ」実行委員としてのお手伝いをさせていただける方を募集しております。

ご協力いただける方は巻末の◆連絡先までご連絡ください▲

## 当日上映映画 ツレがうつになリまして。



夫がうつ病になったことをきっかけに、これまでの自分たちの姿を見つめ直し、共に成長していく夫婦のきずなを描いた感動のラブストーリー。細川貂々のベストセラーコミックエッセイを、映画化。大河ドラマ「篤姫」でも夫婦を演じた宮崎あおいと堺雅人が、互いを思いやるうとする主人公夫婦を絶妙なコンビネーションで演じている。シリアスな題材でありながら、ハートウォーミングな感動を与えてくれる一作。(楽しみながら「あ、うつ病って、何か普通に、自分にもあるかも・・・!」と思いました。)